

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)



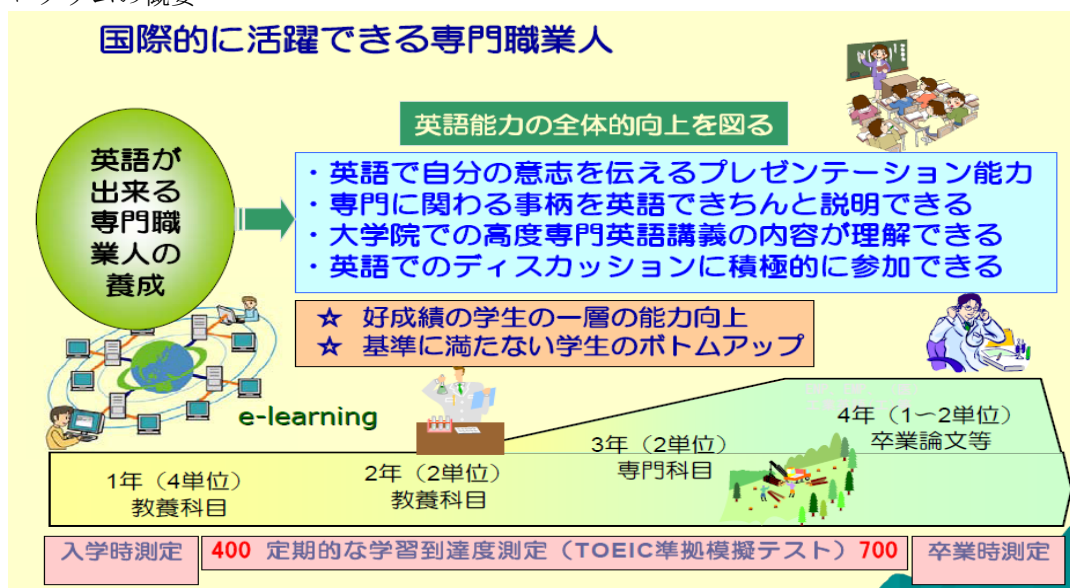
平成 2 2 年 6 月
宮崎大学

目 次

資料 1	国際的に活躍できる専門職業人育成を目指した 学士課程一貫の英語学習プログラム	1
資料 2	大学教育推進プログラム	2
資料 3	共通教育「英語」	3
資料 4	農学部改組概要	4

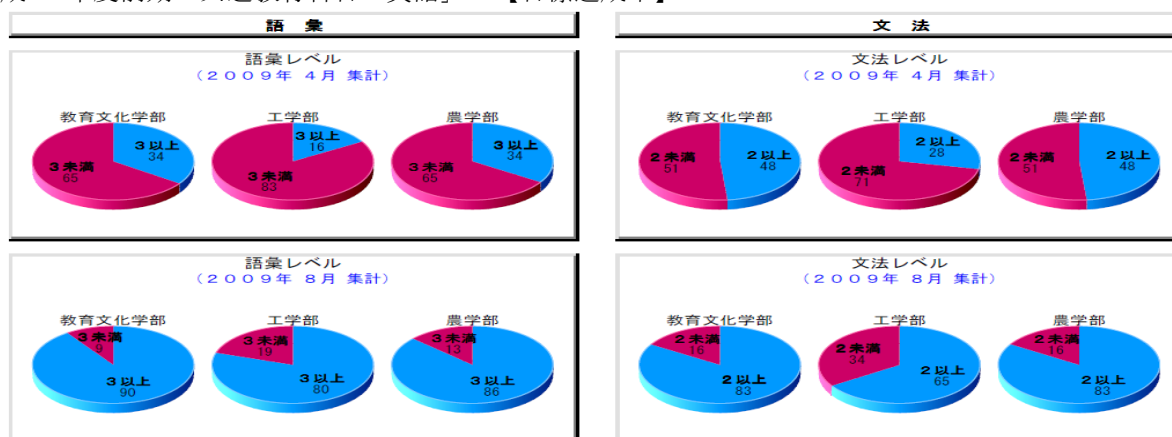
資料1 国際的に活躍できる専門職業人育成を目指した学士課程一貫の英語学習プログラム

1. プログラムの概要



2. 学習の成果

平成 21 年度前期 共通教育科目「英語」 【目標達成率】



3. CALL 教室の自習ブースの開放時間

平成 21 年度 CALL 教室 B の開放時間帯

* 網掛けの時間帯に開放する

曜日	月	火	水	木	金
1-2 時限 (8:30-10:10)	言語(15) 社会(65)	英語 1T(1) 英語 1T(2) 英語 1T(3)*	地域(55)		材料(48) 食料(60)
3-4 時限 (10:30-12:00)		英語 1A(1) 英語 1A(2)	特別支援(15)	英語 3(1) 英語 3(2)	英語 1E(1) 英語 1E(2)
5-6 時限 (13:00-14:30)	土木(58) 情報(58)	英語 1E(1) 英語 1E(2)		英語 1A(1) 英語 1A(2)	応用(55)
7-8 時限 (14:50-16:20)	機械(49) 生物(65)		初等(75) 中学校(60)	英語 1T(1) 英語 1T(2) 英語 1T(3)*	物質(68) 獣医(30)
9-10 時限 (16:40-18:10)				電電(50) 電電(88)	
11-12 時限 (18:30-20:30)					

注：開放時間は学生＜雇用＞を配置する。

4. 平成 21 年度セミナー実績

セミナー	開催日	学習内容
ヒロ前田 TOEIC セミナー	22 年 2 月 17、18 日	TOEIC スコアアップを図るための学習法及び受験技術
工業英語講座	22 年 3 月 3、4 日	技術英語を書く基本的な知識、ルール
アルク TOEIC セミナー	22 年 3 月 8、9 日	TOEIC スコアアップを図るための学習法
プレゼンテーション講座	22 年 3 月 10、11 日	一般的なプレゼンテーション、理工系プレゼンテーション
理工系プレゼンテーション講座	22 年 3 月 15、16 日	技術英語を書く基本的な知識、ルール

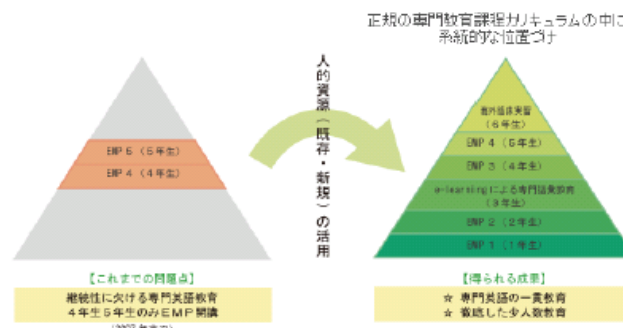
資料2 大学教育推進プログラム

I 「複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成」(医学部) 取組期間: 20~22年度

1. プログラムの概要

EMP/ENP 講座は、正規の専門教育課程カリキュラムの中に系統的に位置づけている。20年度からは、専門英語教育を高次のレベルに充実・発展させるために1~5年次までの一貫した専門英語教育とし、英語教育の質の向上に取り組んでいる。また、積極的に学内講師(医師・看護師)、卒業生など既存の人材を活用している。熱意を持った先輩医師の講義は、医療人としての動機付けの点、経験や知識の循環という点で取組に成果・効果を及ぼしている。

～5年次までの一貫した専門英語教育～
(学内講師・学外講師・特任講師の活用)



2. 教育の質の向上に向けた取組: EMP サポートオフィス

学習環境の充実に向けて「EMP サポートオフィスA」、「EMP サポートオフィスB」の機能を整備した。特に、サポートオフィスBのE-learning教材では、医療英語に特化したメディカルプログラム(Word

EMP サポートオフィス (A)
・特任講師、プロフェッショナルコーディネータ
・教員による学生の自律学習サポート
・学習者コーパスのデータ処理と分析
・教材作成、印刷など
EMPの実施に関わる管理・事務部分を掌握

EMP サポートオフィス (B)
EMPセッションの実施 e-learning 実装 学生の自律学習支援

大画面モニター e-learning 端末 医学英語教材など

自立学習を支援する充実したe-learning教材の活用

stream)を採用し、医学の基本語彙や、診療で患者さんとのコミュニケーションに必要な語彙が学べるプログラムとなっている。

質の高い大学教育プログラム(文科省)

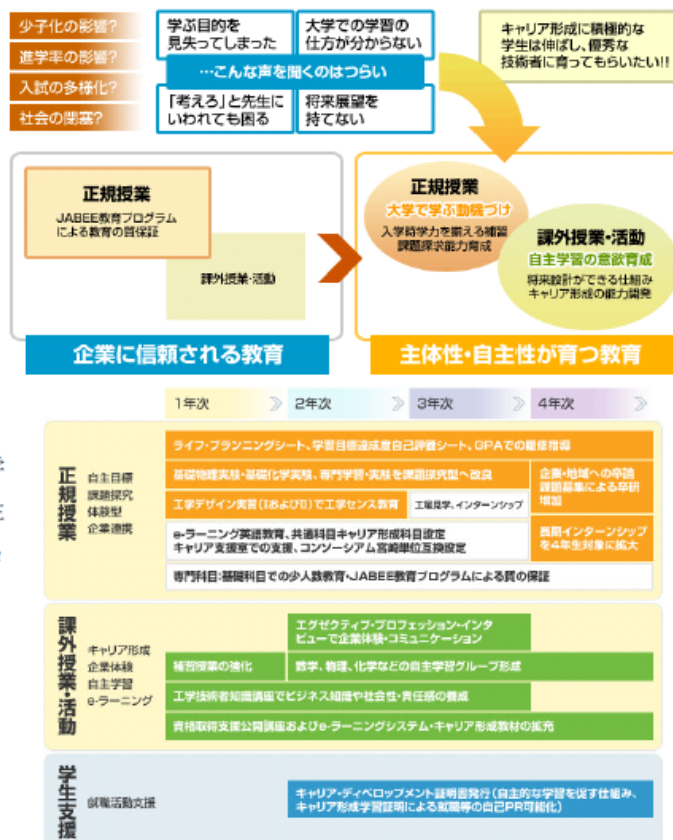
II 「自主を促す工学技術者キャリア教育プログラム」(工学部) 取組期間: 21~23年度

1. プログラムの概要

プログラムでは、工学部で何を学んで将来どのようなことに知識・能力を活かすことができるのかというライフプランを学生の皆さんにしっかりと持ってもらい、目標に向かい自主自立してキャリア・ディベロップメントの学習が継続できるように支援します。

2. 教育の質の向上に向けた取組:

既存の学部教育プログラムに加えて、自主を促すキャリア教育を実現するために、課外授業・活動に複数の取組を導入した。さらに、学生個別の相談等の学生支援に加えて、学生の自主的な学習を促す仕組みとしてキャリア・ディベロップメント証明書の発行を行っている。



資料3 共通教育「英語」

1. 共通教育科目一覧表：英語

区 分		科目群	教育文化学部	医 学 部		工学部	農学部
				医学科	看護学科		
教養 コア 科目	共通 科目	大学入門セミナー	2	2	2	2	2
		情報科学入門	2	2	2	2	2
		英語	4	4	2	4	4
		コミュニケーション英語	2	2	2	2	2
		初修外国語	4	2	2	4	2
		保健・体育	2	1	0	2	2
		小計	16	13	10	16	14
	主題 科目	環境と生命	4	4	2	4	4
		倫理と文化	4	4	4	4	4
		現代社会の課題	4	2	2	4	4
		自然の仕組み	4	4	2	4	4
	小計	16	14	10	16	16	
教養発展科目	文化・社会系	6	6	6	6	6	
	科学・技術系						
	生命科学系						
	複合・学際系						
	キャリア教育・生涯学習系						
	外国語系						
	小計	6	6	6	6	6	
共通教育科目単位数計		38	33	26	38	36	

2. 英語学習サポートデスク

ALC NetAcademy(ネットアカデミー)

共通教育「英語」について

「英語」は、演習／実習として半期週2回(1単位、計2単位)の授業があります。

- 「英語」－演習：教員、アドバイザーの指導のもと学習に取り組む
- 「英語」－実習：自学自習を主とし、随時カウンセリングを受ける

教育目標：

- e-learning教材を使用して、英語の基本4技能(語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力)を養成する。1年生では特に「語彙力と文法力」の養成を目標とする。

教育内容・方法：

- 「PowerWordsコース(語彙力養成)」と「英文法コース(英文法力養成)」を中心に扱い、適宜「スーパースタンダードコース(リスニング力・リーディング力養成)」も扱う。
- 授業は英語専門部会で統括し、英語学習アドバイザーは学習履歴に基づきカウンセリング指導を行う。

到達目標：

1 年次前学期		1 年次後学期	
語彙	→ レベル3	語彙	→ レベル5
英文法	→ レベル2	英文法	→ レベル3

(導入システム)
アルク教育社 ALC NetAcademy

(導入コンテンツ)
スーパースタンダードコース、スタンダードコース、初中級コース 基礎英語コース
PowerWordsコース、英文法コース、ライティング<基礎>コース
技術英語<基礎>コース、技術英語パワーアップコース

ログインについて

利用者は以下の該当するユーザーを選択してログインしてください。選択を間違えるとログイン出来ませんのでご注意ください。

クラスユーザー

ログイン

平成21年度入学生(教育・工・農学部)で、本システムを共通教育「英語」の授業で学習するユーザーです。平成20年度以前の入学生で「選択英語」を履修する学生もこのユーザーです。

自学自習ユーザー

ログイン

学生(学部、大学院等)で、本システムを自学自習で利用するために、情報支援センターから利用者IDを付与されているユーザーです。

教職員ユーザー

ログイン

本システムを利用する教職員はこのグループのユーザーです。

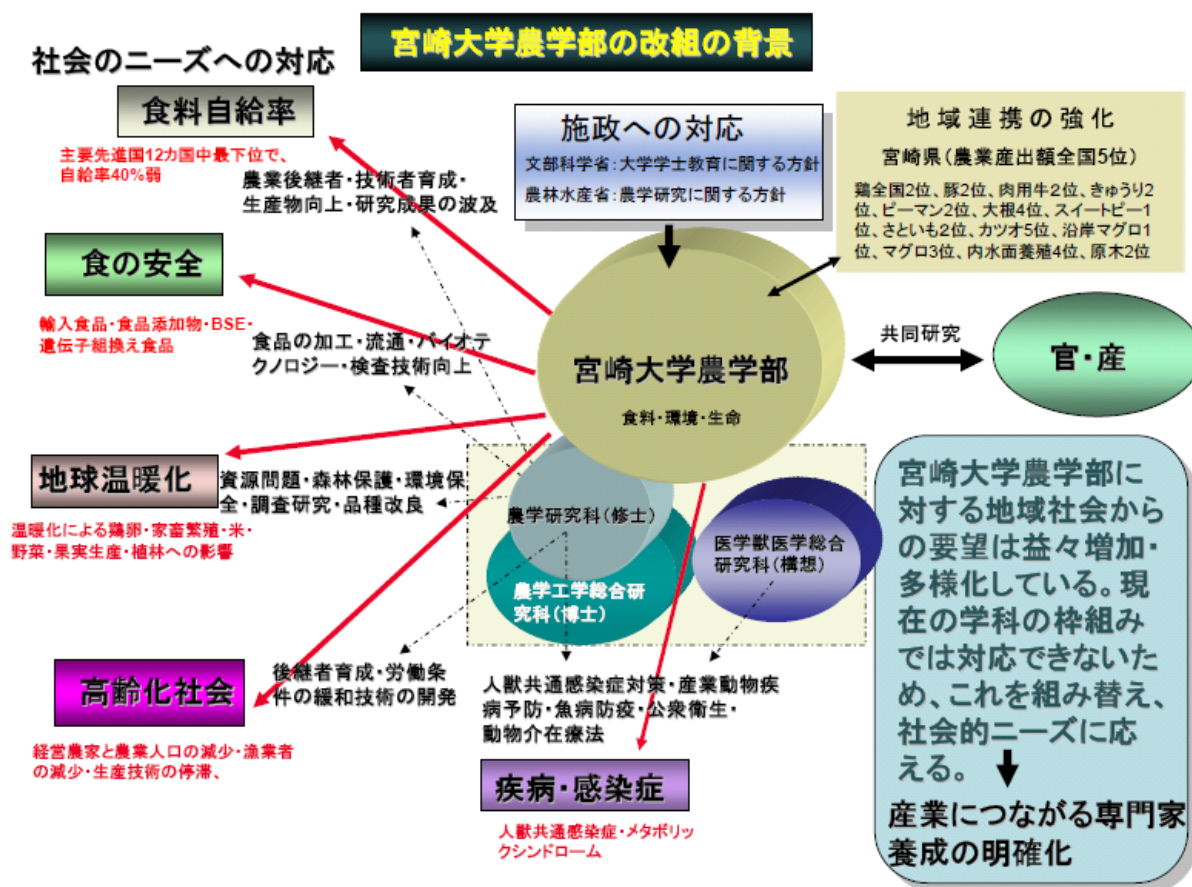
英語学習サポートデスク URL : <http://www.miyazaki-u.ac.jp/~u-com/english/curriculum/gen-english.html>

3. 学生による授業評価：共通教育「英語」

No.	質 問 項 目	4	3	2	1	合 計
1	私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。	50	3			53
2	私(回答者自身)は受講科目に対して真摯な態度で取り組んだ。	36	16	1	1	54
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	31	19	2	0	53
4	授業はシラバスに沿って行われた。	38	14	1	1	54
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	28	19	5	1	53
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	29	20	3	1	53
7	重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	22	22	8	1	53
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	14	25	10	5	54
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	16	24	7	6	53
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。	39	11	1		51
11	学習環境は適切だった。	37	13	3		53
12	この授業は満足できるものだった。	23	20	6	4	53
		363	206	47	21	637

No.	質 問 項 目	4	3	2	1	合 計
1	私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。	56	1			57
2	私(回答者自身)は受講科目に対して真摯な態度で取り組んだ。	42	13	2	1	58
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	34	20	2	1	57
4	授業はシラバスに沿って行われた。	41	14	2		57
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	40	12	5		57
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	32	18	6	1	57
7	重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	29	19	5	4	57
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	19	18	11	9	57
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	25	20	8	4	57
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。	35	21		1	57
11	学習環境は適切だった。	33	21	2	1	57
12	この授業は満足できるものだった。	24	25	6	3	58
		410	202	49	25	686

資料4 農学部改組概要



農学部新組織による教育課程の概要

